

# 松江市立幼稚園・保育所（園）のあり方について

## 【 報告書 】

平成19年2月

松江市立幼稚園・保育所（園）あり方検討委員会

# 目 次

はじめに .....	1
1. 松江市の現状 .....	2
(1) 就学前児童の状況 .....	2
(2) 市立幼稚園の現状 .....	2
(3) 認可保育所（園）の現状 .....	2
2. 今後の市立幼稚園・保育所（園）のあり方 .....	4
(1) 今後の基本的な方向性 .....	4
(2) 各地域における市立幼稚園・保育所（園）の方向性 .....	5
①城北幼稚園 .....	5
②大野・秋鹿・古江幼稚園 .....	5
③内中原・生馬・津田・大庭幼稚園 .....	5
④川津・朝酌・持田・古志原・竹矢・忌部幼稚園 .....	5
⑤母衣・本庄・中央・雑賀幼稚園・幼保園のぎ .....	6
⑥鹿島 .....	6
⑦島根 .....	6
⑧美保関 .....	6
⑨八雲 .....	6
⑩玉湯 .....	7
⑪宍道 .....	7
⑫八束 .....	7
(3) 幼稚園における教育・子育て支援機能の充実 .....	7
①3歳児保育の充実 .....	7
②特別支援教育の充実 .....	7
③預かり保育の充実 .....	7
④一時預かり保育の充実 .....	7
⑤地域との一層の連携 .....	8
参考資料	
1 年齢別人口の推移 .....	9
2 出生数の推移 .....	9
3 児童人口の推計（平成18年～平成21年） .....	10
4 地域別児童数・職員数の推移 .....	11
5 平成18年度 地域別児童数等の状況 .....	17
6 松江市立幼稚園・保育所（園）あり方検討委員会 委員名簿 .....	20

## はじめに

本市においては近年出生数が減少し、少子化が急速に進行するとともに、核家族化が進展している。こうした中で、就労する女性が増加し、保育所に入所する乳幼児が増えている。一方、幼稚園では入園者が年々減少し、定員割れとなっている。また、子育てに不安を抱える親の増加や家庭・地域社会における教育力の低下が問題となっている。

そのため、松江市立幼稚園・保育所（園）あり方検討委員会では、「幼稚園・保育所の子どもたちを同じ就学前の子どもとして捉え、21世紀を担う松江市の子どもたちが、特色ある質の高い教育・保育を受けられるよう幼保園の設置、幼稚園の統廃合について検討する。」ことを目的として、慎重に議論を重ね、おおむね今後10年間の視野に入れた報告書を取りまとめたところである。

今後、市立幼稚園・保育所（園）の整備については、本検討委員会でまとめた方向性を基に、園児数の増減や地域ごとの情勢を踏まえ、速やかな情報開示を行うとともに、地元と十分に協議を行い進められたい。

## 1 松江市の現状

### (1) 就学前児童の状況

就学前児童は、年々減少し続けており、社会的増減がないものとして推計すると、今後とも減少傾向が続くものと想定される。

平成 18 年 10 月 1 日現在、就学前児童の 67.9%が幼稚園又は認可保育所（園）に通園している。また、3 歳から 5 歳については 40.6%が幼稚園（市立幼稚園 31.8%、私立幼稚園 6.6%、国立幼稚園 2.2%）に、51.1%が認可保育所に通園している。

### (2) 市立幼稚園の現状

旧松江市では昭和 40 年代に就学前の教育・保育を充実させる目的で「各小学校区に 1 幼稚園」を基本に幼稚園が整備された。合併後の新松江市においても一部の地域を除き、同様の状況にある。

しかし、平成 18 年 10 月 1 日現在、市立幼稚園 27 園のうち定員に対する入園率が 40%を下回る幼稚園が 10 園、全幼稚園の平均も 51.1%となっている。

最も古い大谷幼稚園は昭和 35 年 3 月に建築された木造施設であり、その他の施設もその多くが昭和 40 年代後半から 50 年代に建築され、老朽化による施設整備が必要な施設が多い状況となっている。

幼稚園で実施されている教育・子育て支援機能としては、3 歳児保育、特別支援教育、一時預かり保育、預かり保育が挙げられる。3 歳児保育は 21 園、特別支援教育のうち特に特別支援幼児教室は 4 園、一時預かり保育は 25 園、預かり保育は 10 園で実施されている。

旧八束郡の鹿島、八雲、玉湯、宍道地域の幼稚園では現在も引き続き学校給食を利用した給食が行われている。

### (3) 認可保育所（園）の現状

認可保育所については、平成 18 年 10 月 1 日現在、公立保育所が 14 所（うち公設民営 4 所）、私立保育所が 34 所設置され、定員に対する入所率が 109.3%となり、保育所に対する需要が高い。

待機児童は平成 18 年 3 月 1 日現在で 153 人、5 月 1 日現在で 56 人、10 月 1 日現在で 45 人と完全な解消には至っていない。そのため、施設整備や認定保育所通園補助制度(\*)を設けるなど待機児童解消に向けた施策を積極的に実施している。

※認定保育所通園補助制度

認定保育所として認定された認可外保育所に通園する保護者（認可保育所入所待機中）に対して、認可保育所と認可外保育所との保育料の差額を助成するもの。

## 2 今後の市立幼稚園・保育所（園）のあり方

### (1) 今後の基本的な方向性

平成 16 年 2 月に策定された新市まちづくり計画において、幼稚園については「3 歳児保育・預かり保育・一時預かり保育・特別支援教育の拡充を図る」と掲げられている。しかし、定員に対する入園率が下がる中で教育効果を低下させないため一定規模を維持することや厳しい財政状況を考慮した運営が求められている。

核家族化の進展に加え年々就労する女性が増加し、保育所へのニーズは高まっているが、幼稚園教育に対しても一定のニーズがある。

従って、保護者の就労の有無や形態などの家庭状況に係わらず、すべての家庭を対象にした、多様で柔軟な教育・保育機能を有する施設の整備が必要になっている。

以上のことから、市立幼稚園と保育所（園）について以下の方向性を示すこととする。

一つには、幼稚園園児数の著しい減少、施設の老朽化などにより新たな施設を整備する場合、より良い幼児教育・保育の環境づくりという視点から幼保園として整備することが望ましい。

二つには、小規模幼稚園において将来にわたって園児数が増加する見込みがない場合は、複数の施設を統合することを検討する必要がある。その場合、園児が通園しやすいようにスクールバスの運行、駐車場の整備などについても併せて検討する必要がある。

三つには、既存施設の状況や地域事情等によって、幼稚園として継続することが適当と判断される園については、幼稚園として存続、整備することが望ましい。その場合、現在の教育・保育の質を低下させることなく、市民ニーズに対応するため、教育・子育て支援機能を充実する必要がある。

一方、認可保育所については、年次的に整備されてきているが、保育所へのニーズが増大・多様化し、待機児童は解消されていない。また、認可保育所のうち 7 割超が私立保育所であり、それぞれ特色ある質の向上を目指した保育が行われている。

国、地方を通じた官から民へという大きな流れの中で、民間にできることは民間にお願いするという視点に立って、公立保

育所の民営化と、小規模保育所の統合について検討する必要がある。

その場合、様々な情報を公開し、保護者や市民の意見、要望を聞きながら双方の信頼関係のもと進めていくこととし、保育サービス・保育水準の維持、向上を図っていく必要がある。

## (2) 各地域における市立幼稚園・保育所(園)の方向性

以上のことを踏まえ、次のとおり各園や地域の方向性を示すこととする。

### ① 城北幼稚園

昭和46年3月の建設で老朽化し、改築の必要がある。

一方、園児数は平成15年度の約150人が18年度に78人まで減少しているが、特別支援教育のサテライト園として重要な役割を担っている。

この地域には複数の私立保育所があるが、常に待機児童がいる状態であるため、近隣の状況を考慮しながら幼保園として整備することが望ましい。

### ② 大野・秋鹿・古江幼稚園

昭和51年から57年にかけて建設され、施設整備の緊急性は比較的低い。

しかし、それぞれの幼稚園とも園児数が少数で推移しており、将来大きく増加する見込みは小さい。

従って、幼稚園の統合を視野に入れ、幼保園として整備することが望ましい。

### ③ 内中原・生馬・津田・大庭幼稚園

昭和46年から48年にかけて建築され、老朽化により施設整備の必要がある。

それぞれの幼稚園とも園児数が比較的多く、当面は極端に園児数が少なくなる可能性は低い。

従って、老朽化による施設整備を検討する必要があるが、基本的には幼保園として整備することが望ましい。

### ④ 川津・朝酌・持田・古志原・竹矢・忌部幼稚園

すべての施設が昭和53年以降に建設され、施設整備の緊急性が比較的低い。

当面現状で継続することとし、施設で受け入れている園

児数や近隣の状況変化に応じて対応することが望ましい。

⑤ 母衣・本庄・中央・雑賀幼稚園・幼保園のぎ

母衣と中央幼稚園は特別支援教育の拠点園として今後とも中心的な役割を担うこととなる。

幼保園のぎは平成 17 年 3 月に幼保一元化のモデル園として整備されたところである。

本庄幼稚園は平成 20 年 3 月完成を目途に小学校に合築する形態で建築中である。

また、雑賀幼稚園は昨年度に耐震改修などを行っている。

従って、これらの 5 幼稚園については当面現状の施設形態として継続することが望ましい。

⑥ 鹿島

地域の 3 つの幼稚園は、昭和 55 年以降に建設されているが、施設は老朽化している。

それぞれの園は、いずれも定員割れが生じ、園児数は今後も減少する傾向にある。

従って、幼稚園を統合し、幼保園として整備することが望ましい。なお、検討にあたっては御津、恵曇両保育所の動向を踏まえられたい。

⑦ 島根

平成 9 年、16 年に 2 つの保育所が整備され、保育所の待機児童はほとんどない。

従って、当面現状の保育所として継続することが望ましい。

⑧ 美保関

平成 12 年、16 年に 2 つの保育所が整備され、保育所の待機児童はほとんどない。

従って、当面現状の保育所として継続することが望ましい。

⑨ 八雲

八雲幼稚園は昭和 61 年に建設されているが、施設が老朽化している。

また、八雲保育園の 5 歳児は幼稚園に通園し、幼稚園児と交流を深めている。

このように、すでに幼稚園と保育園の交流という下地も



あるため、幼保園として整備することが望ましい。

⑩ 玉湯

昭和 35 年、47 年に 2 つの幼稚園が整備されている。

大谷幼稚園は園児数が極端に少ない状況にあるため、玉湯幼稚園と統合し、幼保園として整備することが望ましい。

⑪ 宍道

市町村合併前から幼保園の整備計画があり、平成 16 年からは「幼稚園における幼稚園児及び保育所児等の合同事業特区」と「幼稚園と保育所の保育室共用化事業特区」が認可され、宍道保育所の 3, 4, 5 歳の保育園児は宍道幼稚園に通園し、幼保連携が進んでいる。

また、宍道、来待幼稚園、宍道保育所とも施設の老朽化が著しい。

従って、これらの施設を統合し、幼保園として整備することが望ましい。

⑫ 八束

昭和 50 年、51 年に 2 つの保育所が整備されているが、いずれも老朽化している。

江島保育所は小規模園となっており、今後も地域の児童数が減少することが予想されるため、統合保育所として整備することが望ましい。

(3) 幼稚園における教育・子育て支援機能の充実

① 3 歳児保育の充実

全幼稚園で実施し、園児の状況を見ながら教育時間を適切に定めるよう努め、最終的には降園時間を午後 2 時とすることが望ましい。

② 特別支援教育の充実

発達障害児への対応を含め、特別な支援が必要な園児に対して引き続き支援を行うことが望ましい。

③ 預かり保育の充実

実施箇所数を増やし、保護者が利用しやすい延長時間を設定していくことが望ましい。

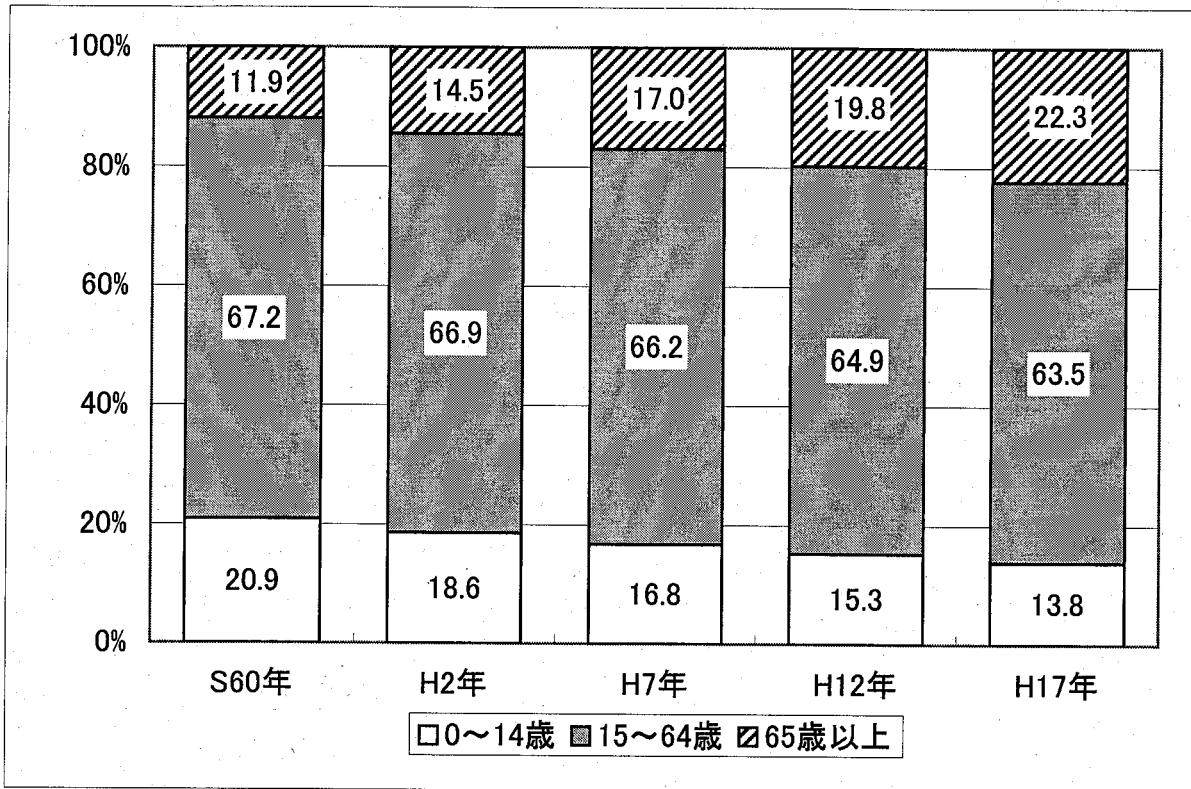
④ 一時預かり保育の充実

保護者一人あたりの実施回数を増やすことが望ましい。

⑤ 地域との一層の連携

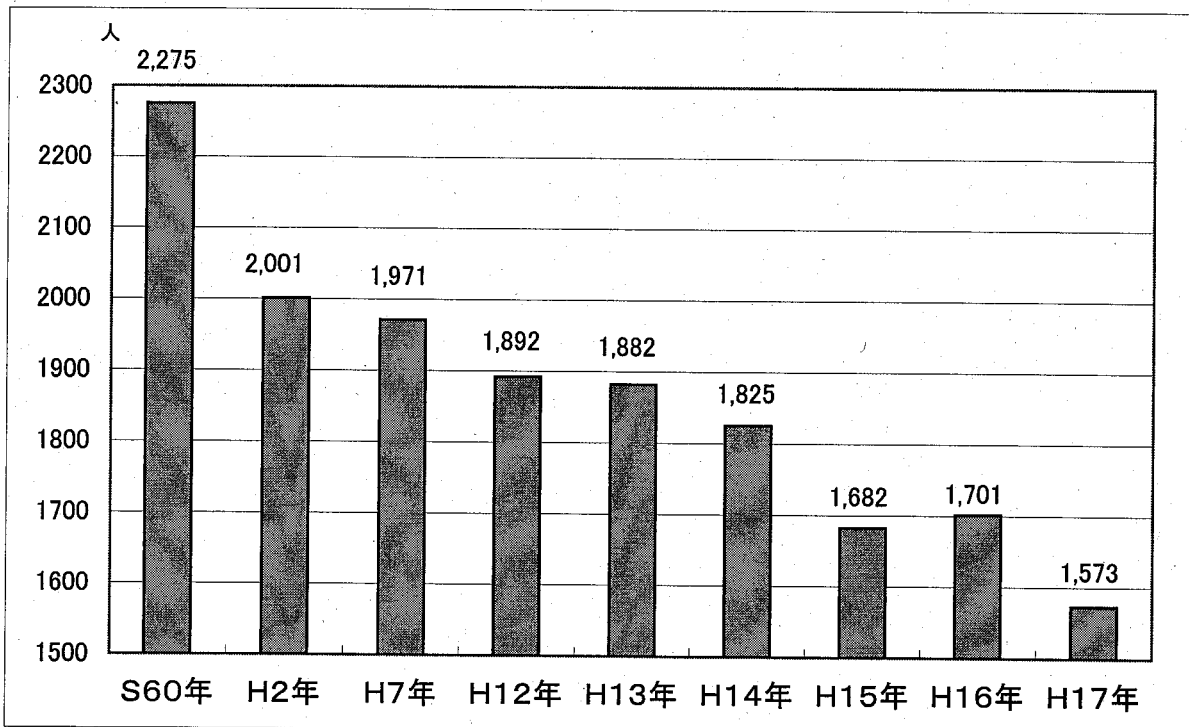
世代間交流や異年齢児交流を進め、また保護者からの相談に対応するなど、家庭や地域の教育力向上のための活動をさらに推進することが望ましい。

## 1 年齢別人口の推移



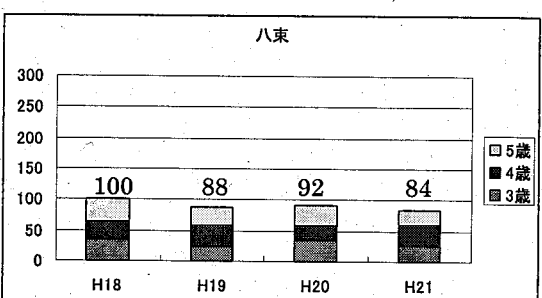
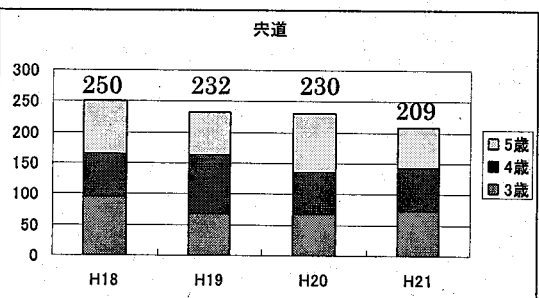
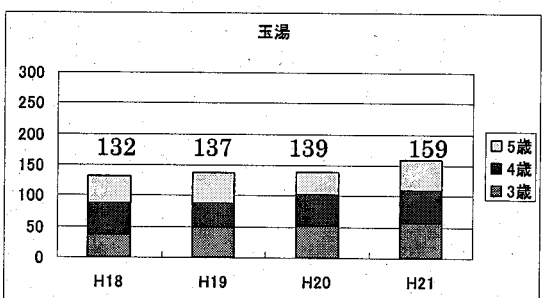
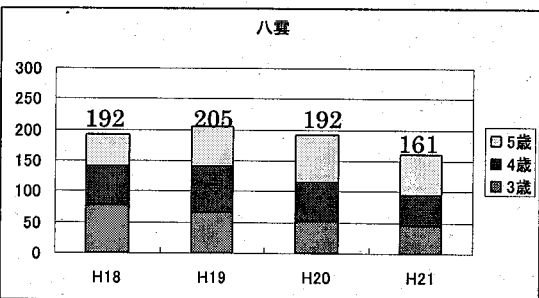
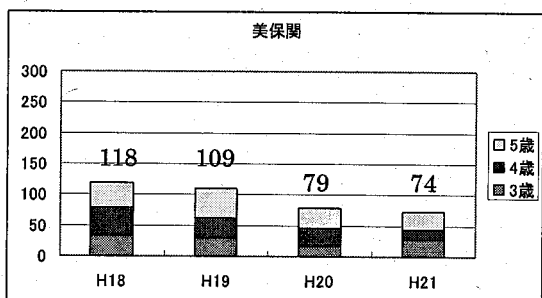
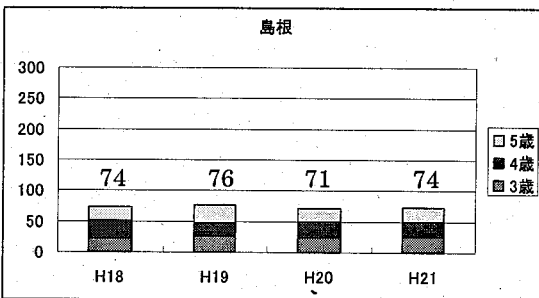
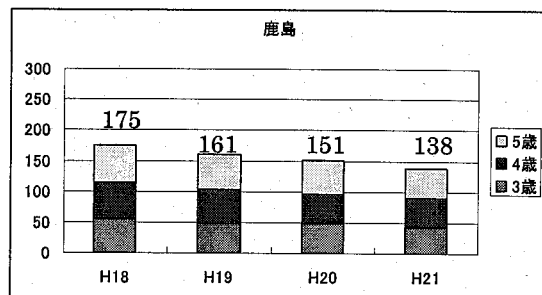
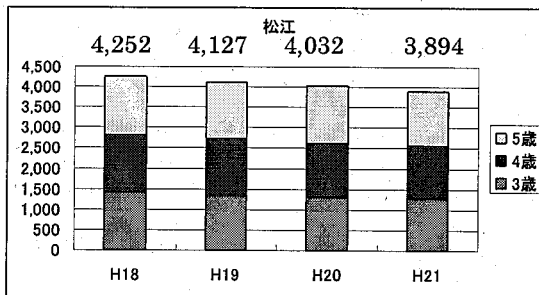
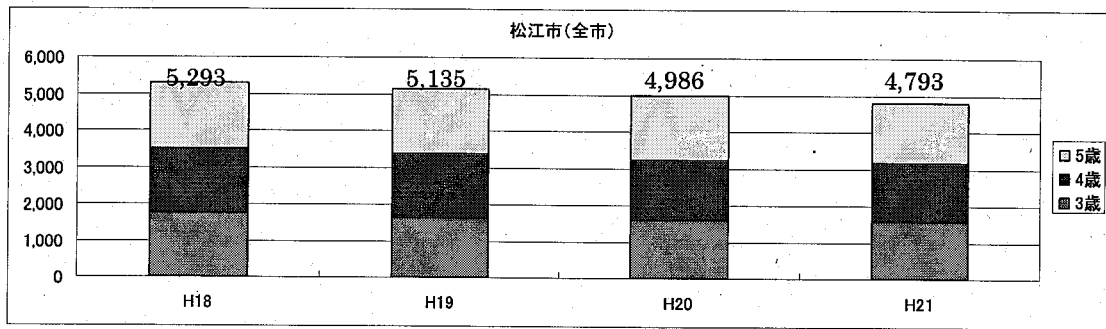
資料：～H12 国勢調査結果報告  
 H17 国勢調査速報値 (年齢不詳を除外しているため、100%にならない)

## 2 出生数の推移



資料：保健衛生統計

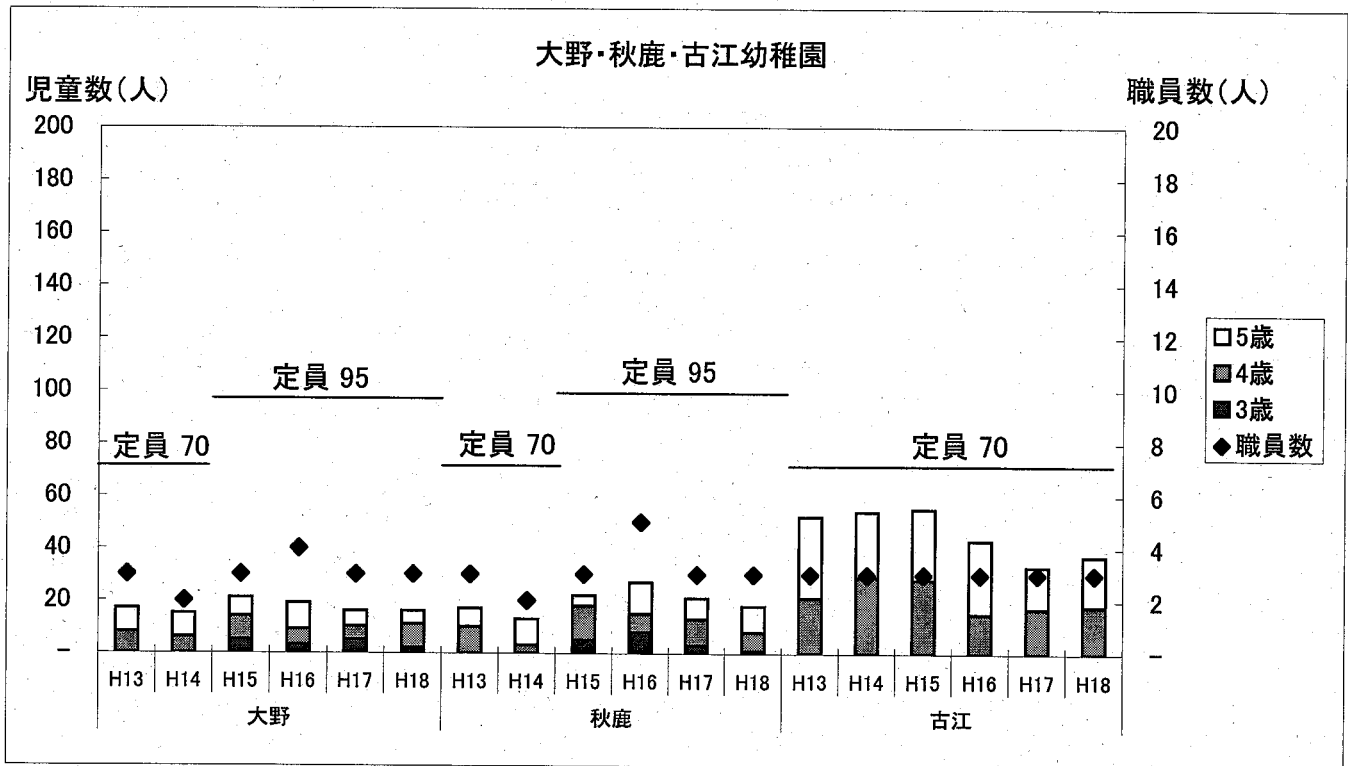
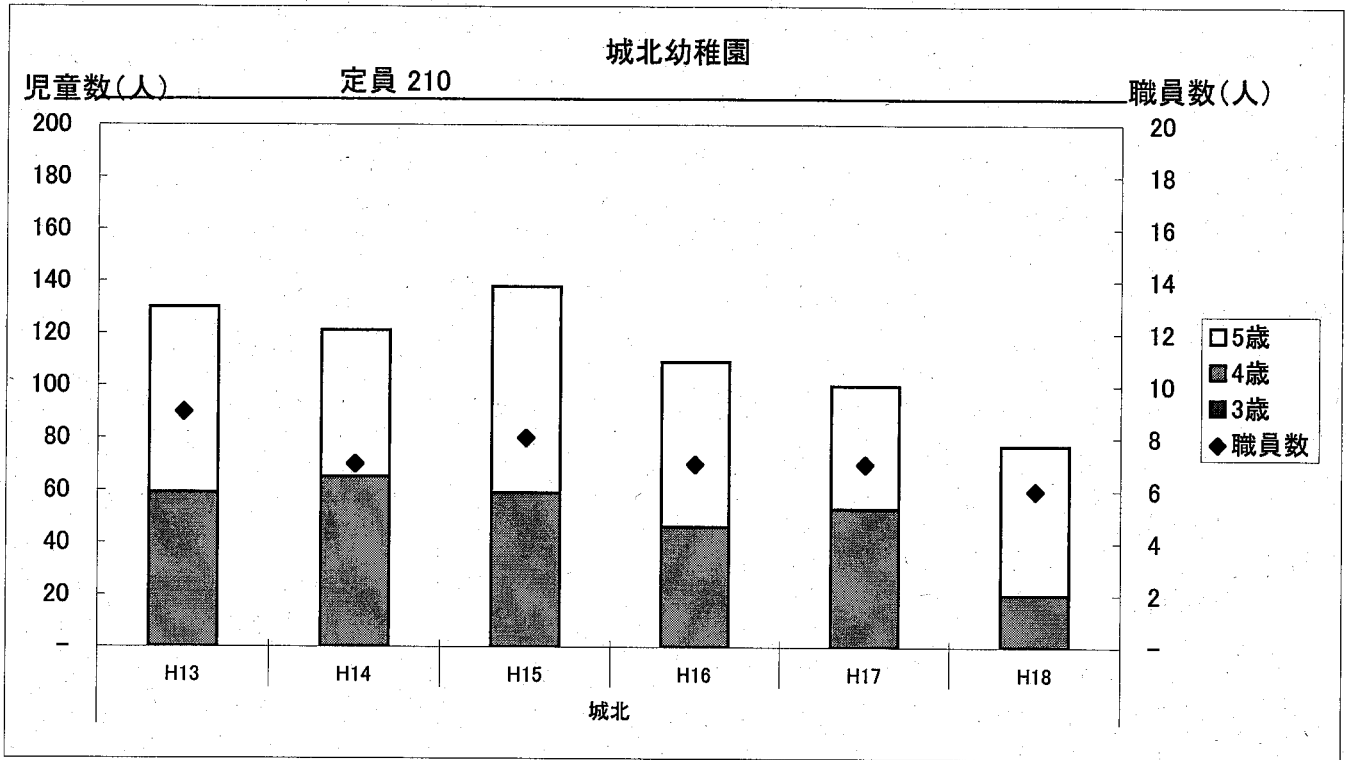
### 3 児童人口の推計（平成18年～平成21年）



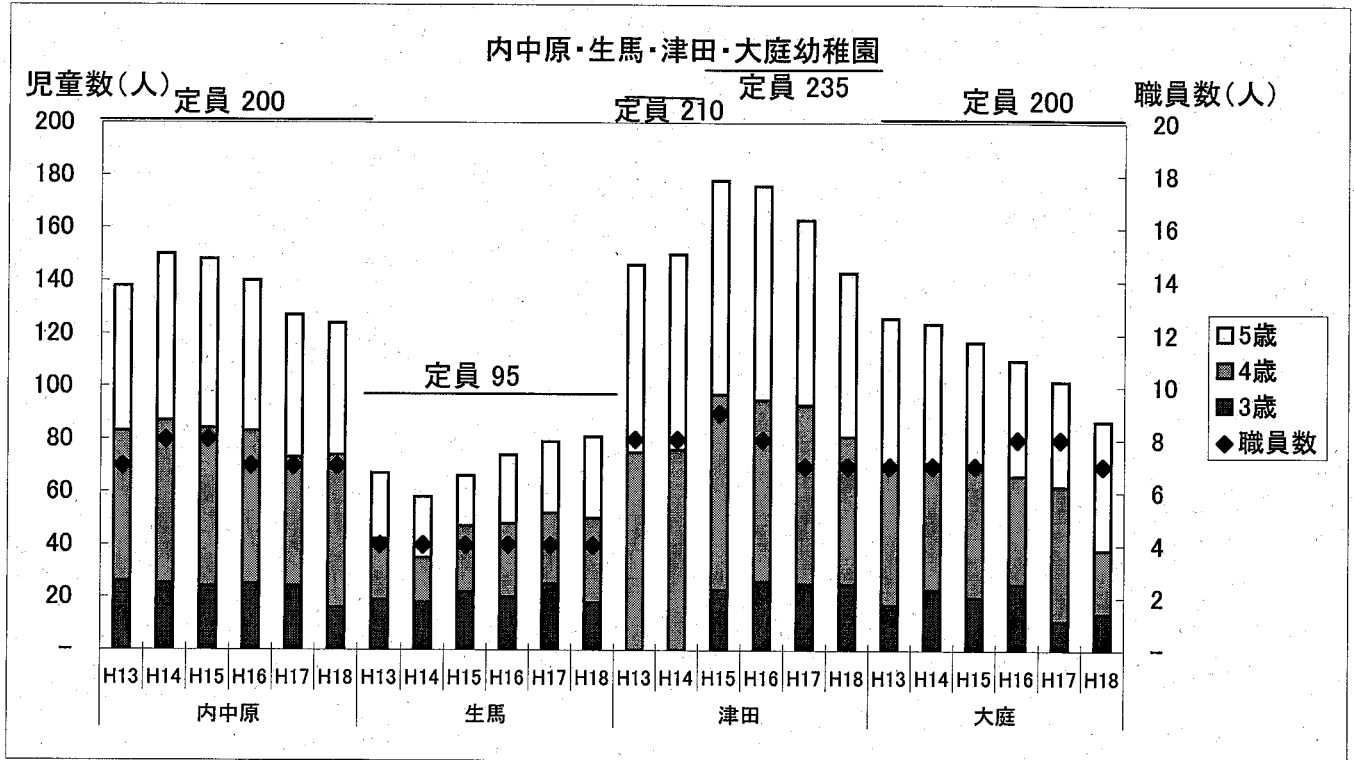
※ 平成18年4月30日を基準

※ 社会的増減がないものと想定

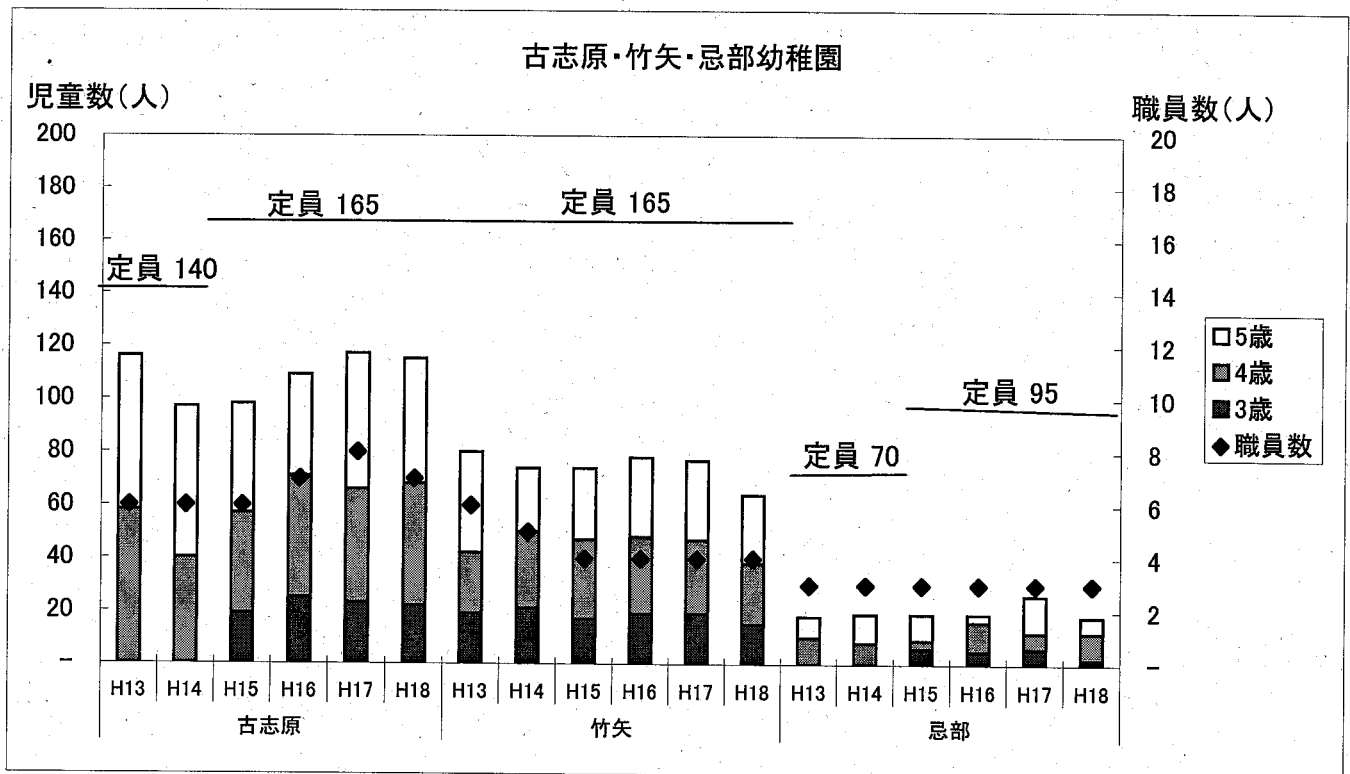
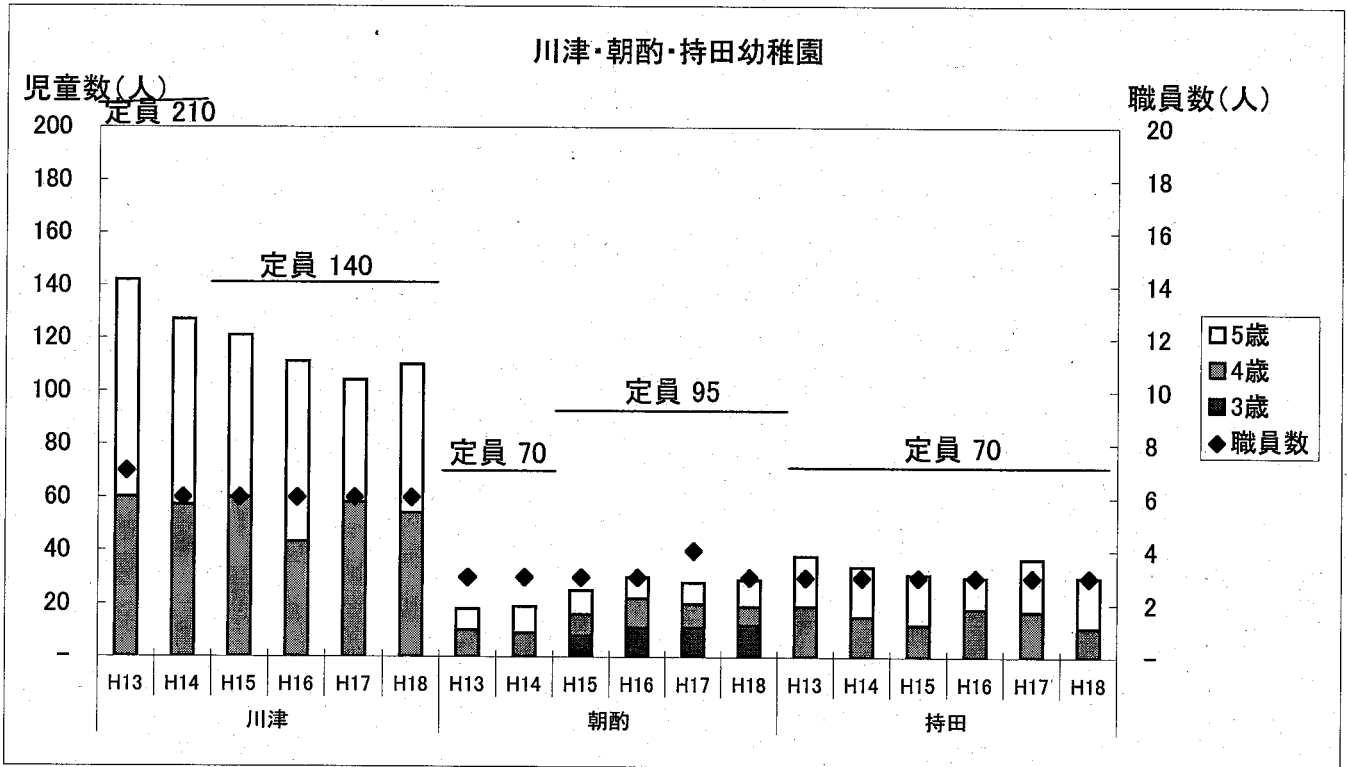
4 地域別児童数・職員数の推移



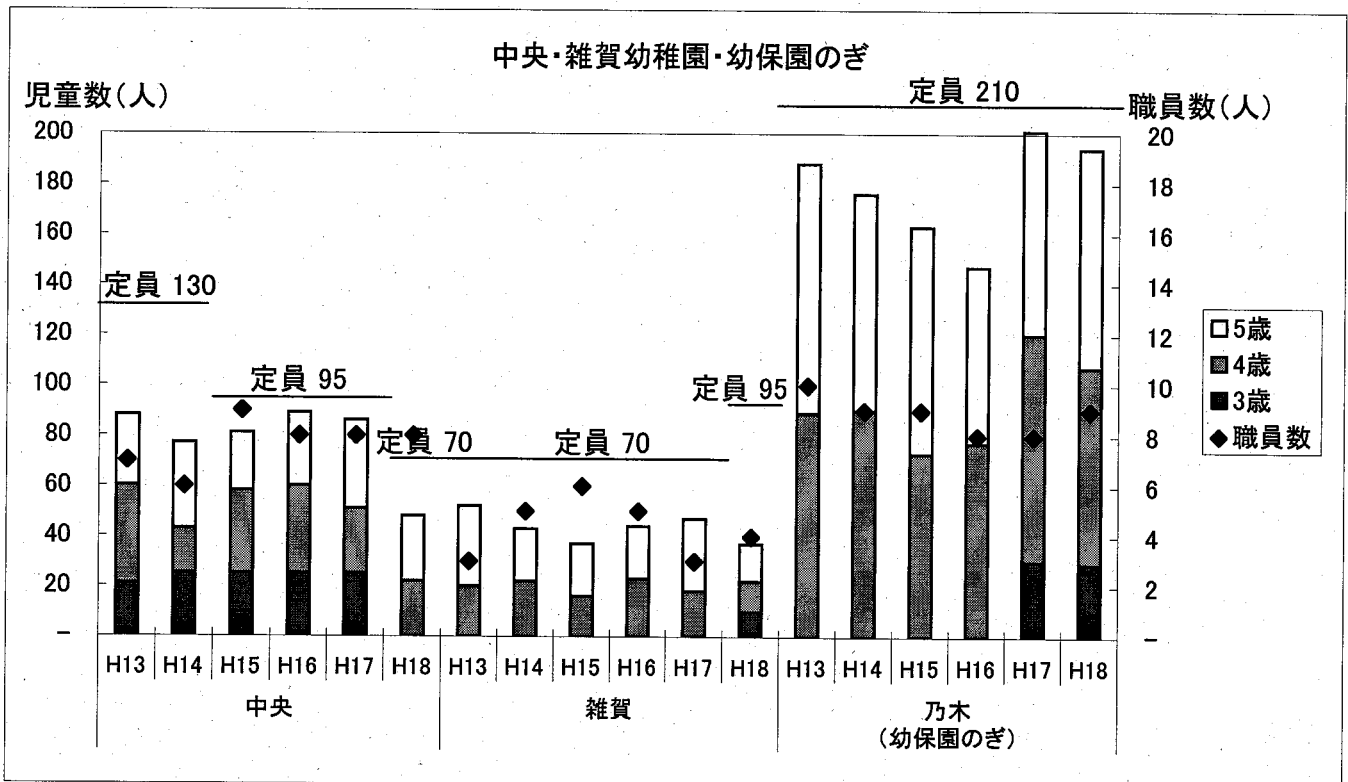
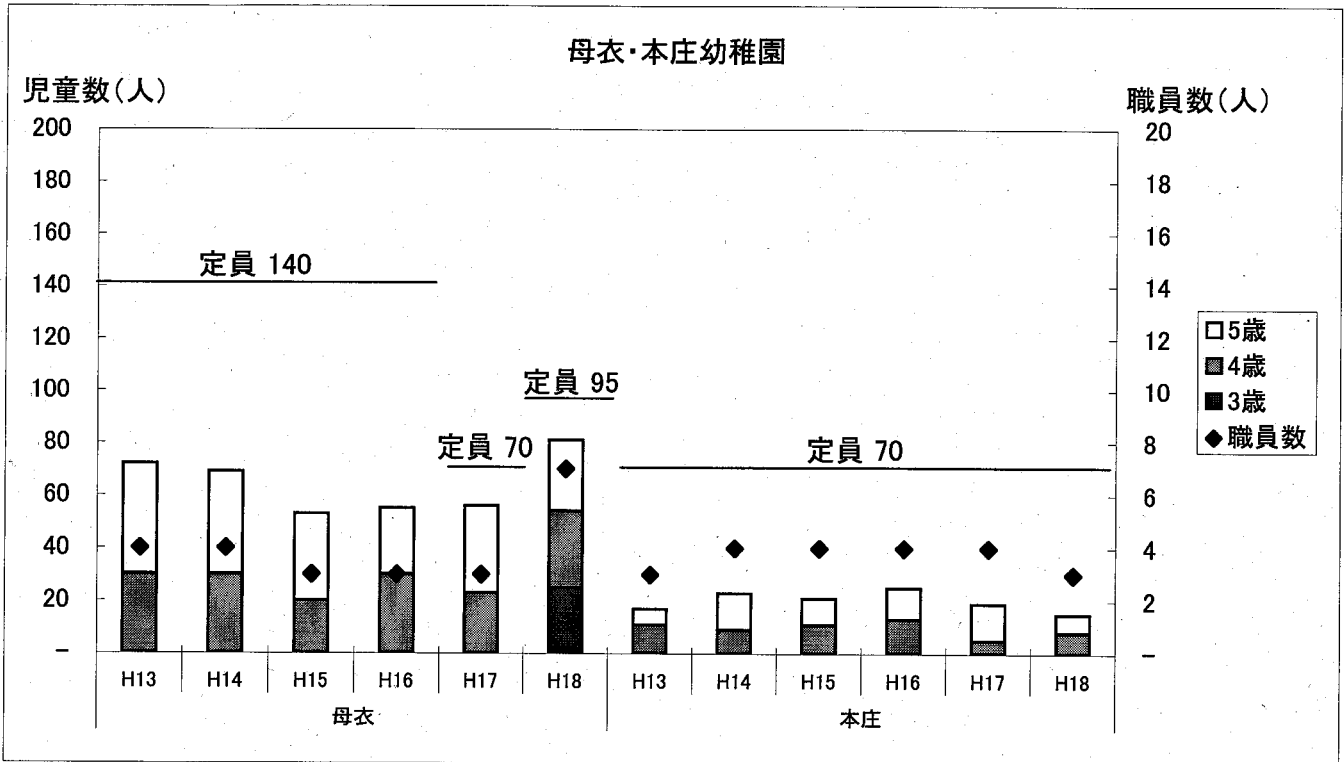
4 地域別児童数・職員数の推移



4 地域別児童数・職員数の推移

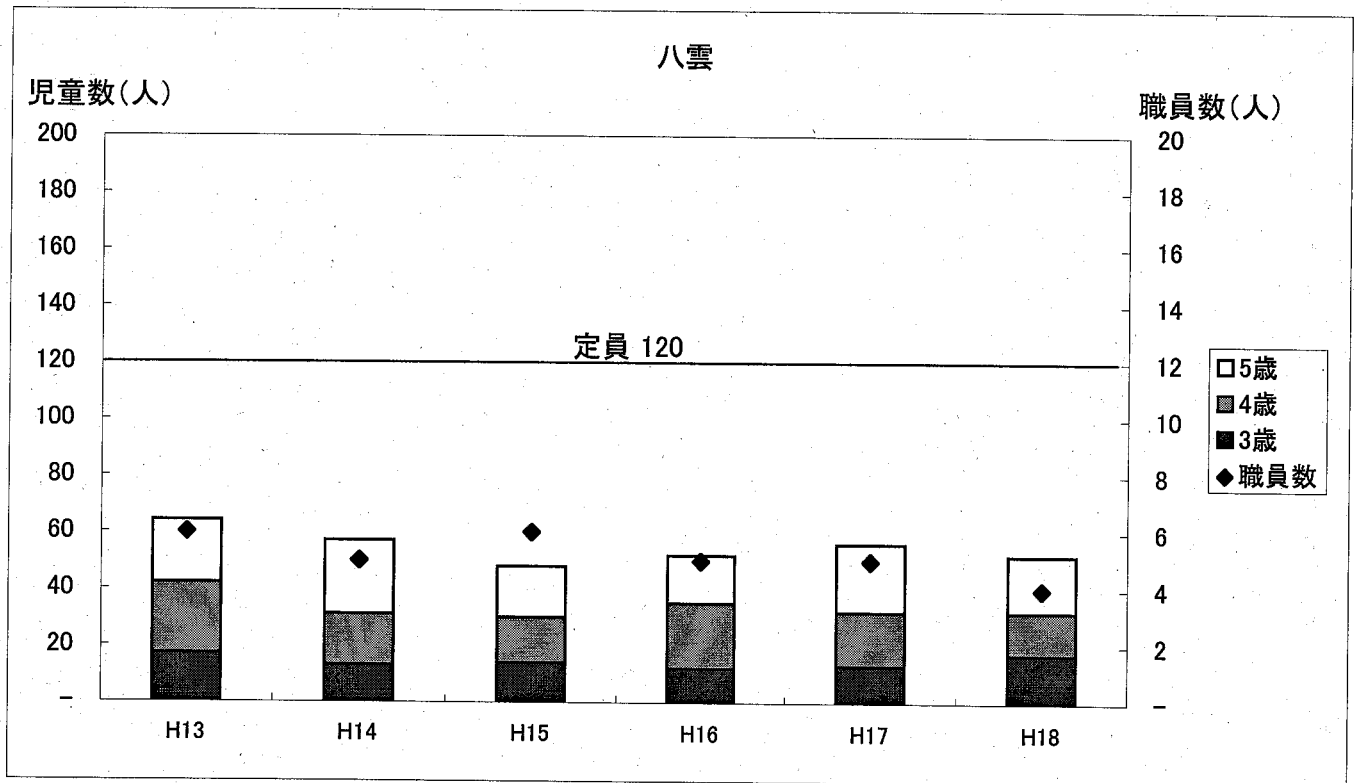
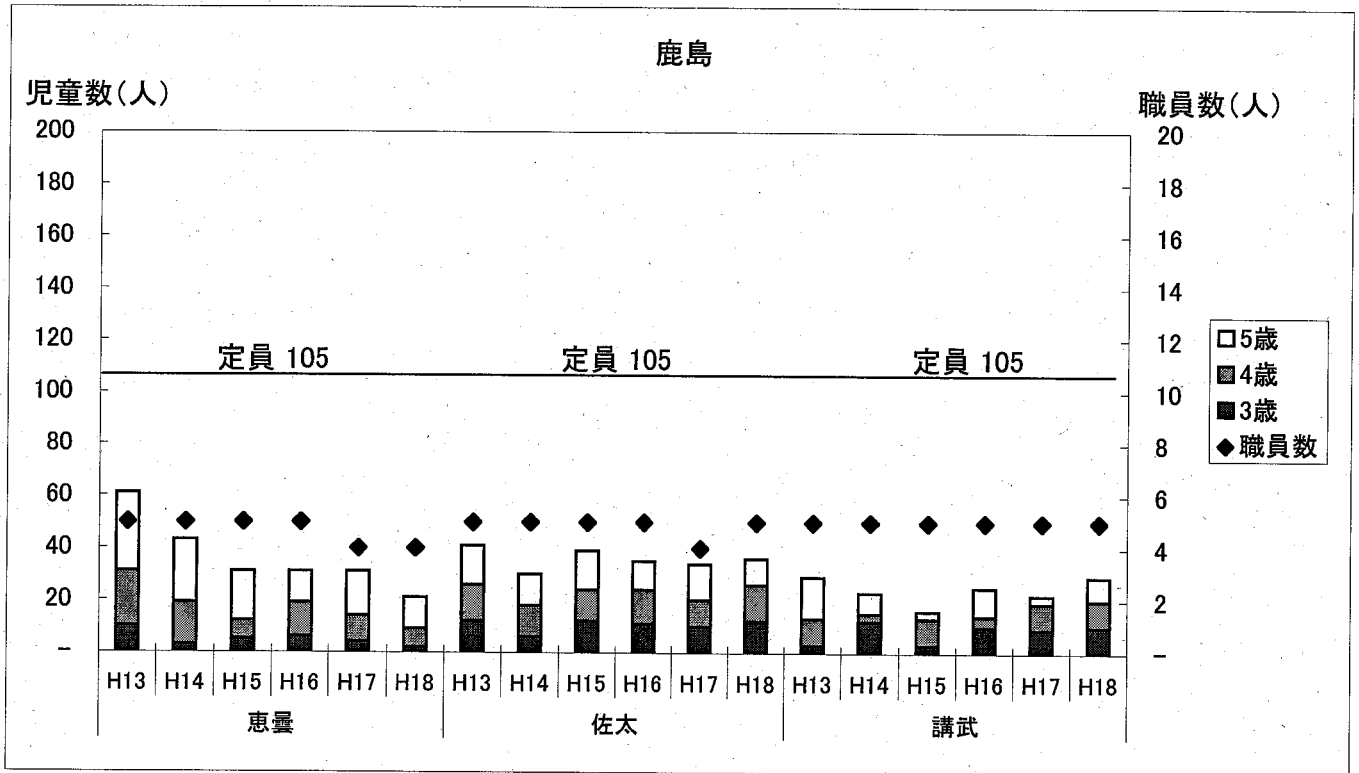


4 地域別児童数・職員数の推移

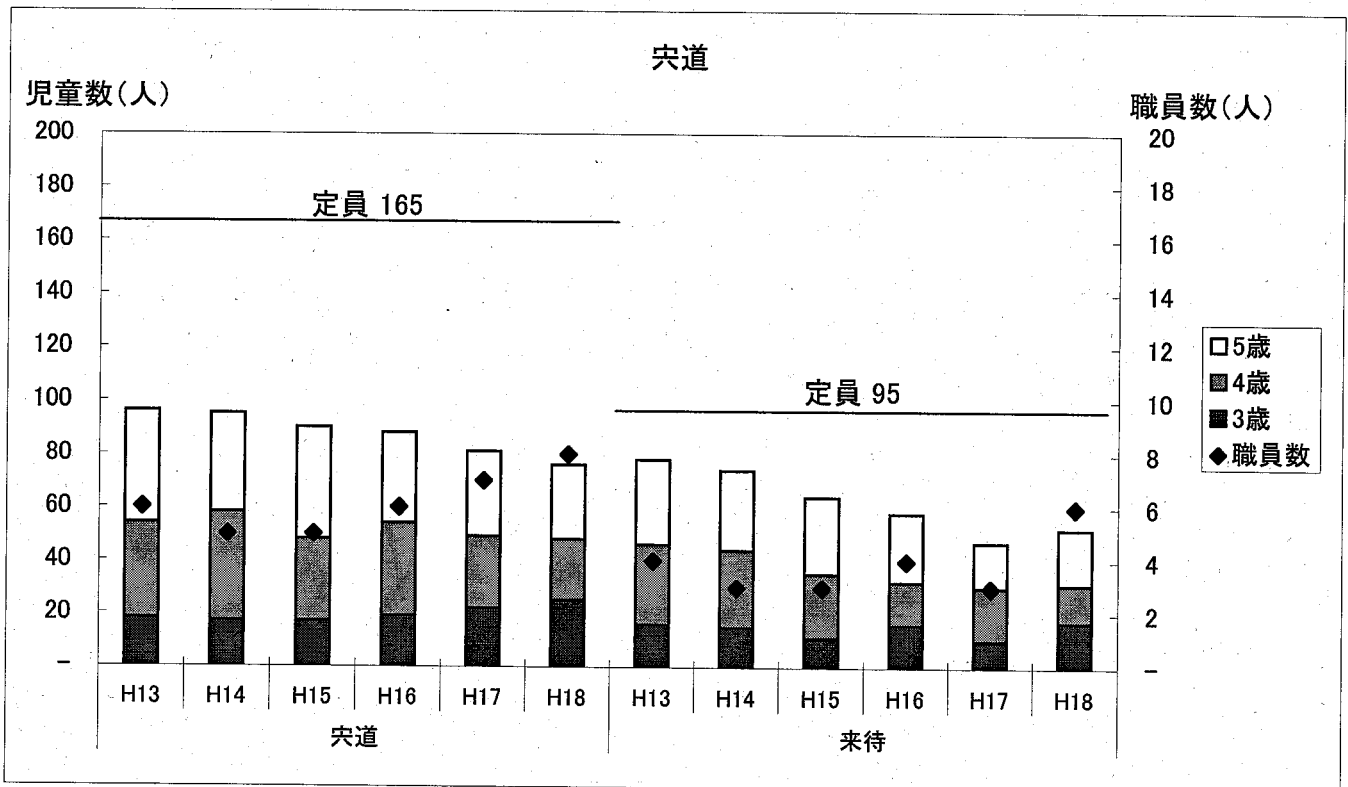
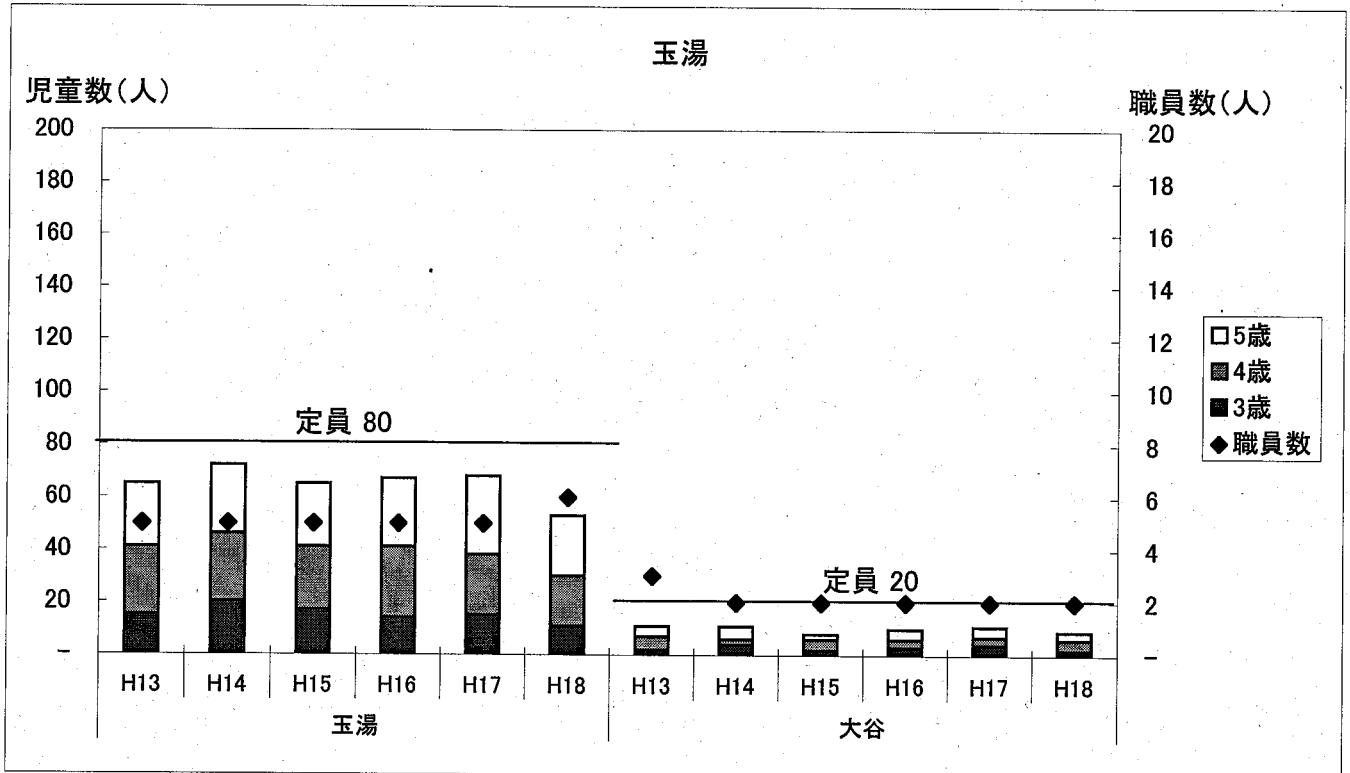




4 地域別児童数・職員数の推移



4 地域別児童数・職員数の推移



5 平成18年度 地域別児童数等の状況

(H18年10月1日現在)

地域	幼稚園名 認可保育所名	0～5歳			3～5歳			子育て支援機能			建築 年月		
		定員	受入数	定員に対 する入園 (所)率	乳幼児 数	受入数 /乳幼児 数	受入数	幼児数	受入数/ 幼児数	3歳児 保育		一時 預かり 保育	預かり 保育
北 城	城北幼稚園	210	78	37.1			78				○	○	昭和46年 3
	法吉保育所	180	210	116.7			138						平成13年 3
	比津ヶ丘保育園	70	85	121.4	1,293	47.6	400	665	60.2		□		昭和53年 3
	嵩見保育所	90	104	115.6			54						昭和56年 3
	みずうみ保育園	60	65	108.3			37				□		平成14年 3
	みずうみ第2保育園	60	73	121.7			40				□		平成17年 4
大 秋 古	大野幼稚園	95	20	21.1	75	26.7	20	42	47.6	○	○		昭和55年 3
	秋鹿幼稚園	95	18	18.9	45	40.0	18	29	62.1	○	○		昭和57年 3
	古江幼稚園	70	38	54.3	238	38.7	38	133	57.1	○	○		昭和51年 2
	ふたば保育所	45	54	120.0			38				□		昭和47年 9
	内中原幼稚園	200	125	62.5			125				○		昭和48年 3
	末次保育所	120	138	115.0	431	84.7	85	222	116.7		□		昭和50年 3
内 生 津 大	しらとり保育所	90	102	113.3			49				□		平成10年 3
	生馬幼稚園	95	82	86.3	200	75.5	82	113	107.6	○	○		昭和47年 3
	みのり保育所	60	69	115.0			31				□		平成18年 3
	津田幼稚園	235	143	60.9			143				○		昭和46年 3
	愛恵保育園	90	104	115.6	936	33.9	64	248	53.8		□		昭和44年 12
	虹の子保育園	60	70	116.7			41						昭和56年 12
川 朝 持 古 竹 忌	大庭幼稚園	200	85	42.5	530	39.1	85	191	67.5	○	○		昭和47年 3
	育英幼稚園	200	122	61.0			106				○		平成8年 4
	川津幼稚園	140	111	79.3			111				○		平成3年 2
	育英北幼稚園	210	128	61.0			113				○		平成8年 4
	城東保育所	120	131	109.2	989	79.2	87	503	98.4				平成3年 9
	しらゆり第2保育所	110	121	110.0			67						昭和47年 2
津 酌 田 原 矢 部	たまち保育園	210	223	106.2			125				□		平成3年 7
	たまち育英北保育園	60	69	115.0			-				□		平成17年 2
	朝酌幼稚園	95	29	30.5	89	32.6	29	29	67.4	○	○		昭和62年 7
	持田幼稚園	70	29	41.4	199	14.6	29	29	27.6	○	○		昭和62年 3
	古志原幼稚園	165	112	67.9			112				○		昭和55年 3
	古志原保育所	130	146	112.3	684	83.0	88						昭和53年 3
志	しらゆり保育園	120	146	121.7			82	375	100.5		□		昭和42年 6
	なかよし保育園	90	89	98.9			45						昭和50年 1
	こばと保育園	60	75	125.0			48				□		昭和54年 2
	竹矢幼稚園	165	64	38.8			64				○		昭和59年 1
	わかたけ保育園	90	100	111.1	365	84.9	53	200	113.0		□		平成17年 5
	しらゆり第3保育園	120	146	121.7			83				□		昭和52年 9
志部幼稚園	95	18	18.9	101	17.8	18	55	32.7	○	○		昭和53年 12	

※公民館区を基本として地域を決定した。  
□は保育所における「一時保育」である。

5 平成18年度 地域別児童数等の状況

(H18年10月1日現在)

地域	幼稚園名 認可保育所名	0～5歳			3～5歳			子育て支援機能			建築 年月	
		定員	受入数	定員に対する入園率(%)	乳幼児数	受入数/乳幼児数	受入数	幼児数	受入数/幼児数	3歳児保育		一時預かり保育
鹿	母衣幼稚園	95	83	87.4			83			○	○	平成18年 3
	松江曙の星幼稚園	120	96	80.0	369	124.9	96	187	208.0	○	○	昭和42年 4
	島根大学附属幼稚園	160	116	72.5			116			○		昭和30年 10
	しらゆり千鳥保育園	150	166	110.7			94				□	昭和47年 4
	本庄幼稚園	70	15	21.4	94	88.3	15	52	105.8		○	昭和47年 9
	本庄保育所	60	68	113.3			40				□	昭和61年 3
	中央幼稚園	70	47	67.1			47			○	○	平成7年 3
	白湯保育所	70	83	118.6	356	86.8	45	192	97.4			平成11年 3
	松江ナザレン保育園	60	67	111.7			33				□	昭和56年 4
	松江保育所	90	112	124.4			62				□	平成15年 3
	雑賀幼稚園	95	40	42.1			40			○	○	昭和51年 10
	松徳幼稚園	130	34	26.2	211	240.8	34	103	313.6	○	○	昭和42年 9
	松尾保育所	45	49	108.9			26				□	昭和63年 3
	みつき保育園	250	268	107.2			154				□	昭和52年 3
みどり保育所	100	117	117.0			69				□	平成13年 3	
幼稚園のぎ(幼稚園)	210	198	94.3			198			○	○	平成17年 3	
幼稚園のぎ(保育所)	30	30	100.0			0					長時間保育	平成17年 3
袖師保育所	110	131	119.1			77				□		昭和48年 12
乃木保育所	90	620	118.9	961	69.4	61	503	81.9		□		昭和60年 2
つわぶき保育園	60	75	125.0			38				□		平成17年 5
みつき田和山保育園	90	100	111.1			31				□		平成18年 5
みつき田和山夜間保育園	30	26	86.7			7				□		平成18年 5
松江 計		6,560	5,550	84.6	8,166	68.0	3,845	4,241	90.7			
島	惠曇幼稚園	105	21	20.0			21			○	○	昭和56年 3
	惠曇保育所	100	81	81.0			42					昭和62年 4
	佐太幼稚園	105	37	35.2	318	69.8	37	170	98.2	○	○	昭和55年 3
	講武幼稚園	105	30	28.6			30			○	○	昭和57年 3
	御津保育所	60	53	88.3			37					平成元年 3
小計		475	222	46.7	318	69.8	167	170	98.2			
島	野波保育所	60	59	98.3	159	80.5	31	75	104.0			平成9年 9
	マリン保育所	80	69	86.3			47				□	平成16年 12
	小計	140	128	91.4	159	80.5	78	75	104.0			
美保	美保関西保育所	80	68	85.0	191	74.9	54	114	99.1		□	平成12年 2
	美保関東保育所	80	75	93.8			59				□	平成16年 3
	小計	160	143	89.4	191	74.9	113	114	99.1			

※公民館区を基本として地域を決定した。  
□は保育所における「一時保育」である。

5 平成18年度 地域別児童数等の状況

(H18年10月1日現在)

地域	幼稚園名 認可保育所名	0～5歳			3～5歳			子育て支援機能			建築 年月	
		定員	受入数	定員に対 する入園 (所)率	乳幼児 数	受入数/ 乳幼児 数	受入数	幼児数	受入数/ 幼児数	3歳児 保育		一時 預かり 保育
八	八雲幼稚園	120	53	44.2			53			○		昭和61年 1
	八雲保育園	80	87	108.8	339	78.2	56	185	95.7			昭和52年 3
	たけかや保育園	60	73	121.7			43				□	平成13年 3
	ひよし保育園	45	52	115.6			25				□	昭和61年 3
	小計	305	265	86.9	339	78.2	177	185	95.7			
玉	玉湯幼稚園	80	55	68.8			55			○		昭和47年 3
	大谷幼稚園	20	9	45.0	298	56.4	9	131	96.9	○		昭和35年 3
	湯町保育園	90	104	115.6			63			○		昭和53年 3
小計	190	168	88.4	298	56.4	127	131	96.9				
宋	宋道幼稚園	165	76	46.1			76			○		昭和43年 11
	宋道保育所	120	143	119.2	460	58.7	96	249	89.6		□	昭和50年 4
	宋来待幼稚園	95	51	53.7			51			○		昭和45年 3
	小計	380	270	71.1	460	58.7	223	249	89.6			
八	江島保育所	30	21	70.0	181	68.0	16	93	96.9			昭和51年 1
	二葉保育所	150	102	68.0			77					昭和50年 2
	小計	180	123	68.3	181	68.0	93	96	96.9			
幼稚園計		4,085	2,163	52.9			2,132		40.6			
保育所計		4,305	4,706	109.3			2,691		51.1			
総計		8,390	6,869	81.9	10,112	67.9	4,823	5,261	91.7			

※公民館区を基本として地域を決定した。  
□は保育所における「一時保育」である。

松江市立幼稚園・保育所（園）あり方検討委員会 委員名簿

	氏 名	所 属
委員 長	ひご こういち 肥後 功一	島根大学教育学部教授
副委員 長	ながおか まこと 長岡 誠	松江市公民館長会副会長
委 員	あおやまゆういちろう 青山雄一郎	旧町村橋北地区幼稚園利用者
	あやの てるよ 綾野 輝代	一 般 公 募 市 民
	いちかわ ひろまさ 市川 博正	松江市民生児童委員協議会連合会会長
	かなさか まさひろ 金坂 政宏	松江市幼稚園PTA連合会代表
	かんだ ひろゆき 神田 裕幸	松江青年会議所副理事長
	きしもと つよし 岸本 強	島根女子短期大学助教授
	ささきたけお 佐々木武男	松江市町内会・自治会連合会理事
	しんじ まさとし 宍道 正年	松江市小学校長会代表
	ないとう ゆうこ 内藤 優子	旧町村橋南地区幼稚園利用者
	なんば やすただ 南場 安正	松江市保育研究会代表
	みたに なおこ 三谷 直子	一 般 公 募 市 民
やまだ よしひこ 山田 義彦	松江市保育所（園）保護者会連合会 代 表	

14名（五十音順、敬称略）

男性 11名

女性 3名